

「ダーナ」とはサンスクリット語で、[布施]の意。

ダーナ●第18号

発行日●平成23年7月30日

編集/発行●浄土宗平和協会(JPA)

発行人●荻野順雄

YEAR BOOK

Jodo Shu Peace Association

公益教化団体として

3月11日に発生した東日本大震災、また原発事故において、被災されたすべての皆様に心からお見舞い申し上げます。また、失われた尊い命に、祈りを捧げると共に心から哀悼の意を表します。発生から4ヶ月以上が過ぎた今も、多くの方々が避難所での生活を余儀なくされ、復旧、復興もままならない被災地が数多くあることに心が痛みます。

浄土宗平和協会は、浄土宗唯一の平和団体として、平成20年にミャンマー・サイクロン災害、中国四川省大地震災害、昨年には、スマトラ島沖地震災害・ハイチ地震災害に対しての緊急募金を実施するなど、過去に災害対策の実績を重ねてまいりました。今回の大震災においても、いち早く行動すべきとも思いましたが、かつては海外への支援が中心であったこと、また浄土宗が一宗をあげて素早く行動をおこしたこともあって、当初は宗に協力する立場を取ってまいりました。しかし、多くの会員の方から緊急募金をすべきとの声があがり、会員にかぎって募集をしたところ、実に多くの方から募金をいただき、5月18日の集計で、総額8,831,595円もの善意をいただきました。

これらの善意は、今まで平和念仏募金を通じて支援してきたNGOの被災地での活動支援金として、分配をいたしました(7ページ参照)。それは、浄平協の活動の歴史を鑑み、単に募金を公的機関に寄付をするのではなく、その使徒が具体的、かつ現地での直接的な活動として活用されるのがよいのではないかとの判断でありま

次の20年を見据えて 公益的な活動の 広く深い展開を

す。現に、各NGO団体は今も被災地での活動を続け、浄平協が託した活動資金が、間違いなく被災者支援へとつながっていると確信しています。

新たな一步を踏み出す

今年度は、創立20周年を踏まえた新たな一步を踏み出す重要な1年であります。役員改選期にもあたり、長年理事をお務めいただいた渡辺成就師、加用稔子さんが理事を勇退され、かわって宮城教区の東海林良雲師が理事にご就任いただきました。その他の役員にはご留任をいただき、今まで通りにご尽力をいただくこととなりました。

平成23年度は、ブック・ギフトin Tokyoと共に、ブック・ギフトin Kansaiとして、関西地区でも始めて開催します。また、恒例の平和賞、NGO支援、平和念仏募金も、従来通り行うなど、事業の安定した実行を目指しつつ、より幅広い活動を展開するための1年としたいと考えています。本年度も浄土宗平和協会の活動にご期待ください。

浄平協総裁・浄土門主伊藤唯眞殿下から平和賞を授与される堀眞哲師



第3回浄土宗平和賞

海外の教育支援事業を推進する「テラ・ネット」が受賞

去る6月6日、新装なった和順会館の和順ホールにて、浄土宗平和協会の平成23年度総会、並びに第3回浄土宗平和賞の授賞式が行われました。

同賞は、平和・環境保護・国際交流・地域福祉など、幅広い分野で活動を行っている浄土宗寺院・教師、または教師が代表（中心的な役員）を務める団体を顕彰、支援するもので、今回は福岡教区嘉穂組真福寺の副住職・堀眞哲師が代表を務める「テラ・ネット（Terra Net）」が受賞、浄土宗平和協会総裁・浄土門主伊藤唯眞猊下より、賞状・額装彫金レリーフ並びに活動資金として副賞が手渡されました。

テラ・ネットは、平成7年の阪神・淡路大震災でボランティア活動を行った佐賀県を中心とする僧侶が中心となって発足したもの。テラ・ネットの「テラ」は、ラテン語で地球、大地の意味、お寺のネットワークでもあり、地球のネットワークも意味し、日本とアジアの橋渡し役として、バングラデシュでの中学校建設などの支援を行ってこられました。

授賞式で伊藤唯眞猊下は、「テラ・ネットが初期の目

的に向かってますます発展していくことを期待している」と述べられると共に、支え合いの共生社会の実現の重要性を語られました。

なお、平和賞候補のうち、選考委員会で得票のあった以下の6団体は来年の第4回平和賞候補として残ります。

- ①つきかげ堂（福井純史代表）
- ②NPO法人ユニ（遠藤暁及代表）
- ③NPOグローバル・ヒューマン・サポーターズ（本多義敬代表）
- ④圓福寺（池田常臣代表）
- ⑤江戸川おんぶず（大河内秀人代表）
- ⑥ひとさじの会（原正午代表）



茨野理事長と受賞したテラ・ネットの面々

浄土宗平和賞を受賞して

テラ・ネット／堀眞哲

この度は浄土宗平和賞という名誉ある賞を受賞させていただき、大変光栄に思っております。

当会は、日本におけるアジアの玄関口・九州を拠点とし、海外（主にアジア）の教育支援を柱としながら社会貢献に努めている団体です。

これまでは会自体もアジア時間とでも申しましょうか、の～んびりした空気の中で活動して参りましたが、今回の受賞で背筋の伸びる思いです。

音で「テラネット」と聞きますと『寺ネット』と想像されるかと思えます。お寺のネットワークというもあながち間違いではないのですが、テラネットをローマ字表記致しますと『Terra Net』と書きます。

『r』が二つ続いているのは決してプリントミスではありません。これはラテン語によるところの『地球』『大地』を意味します。確かにお寺ネットワークでもあるのですが、地球ネット

ワークの意味合いの方が強く、二つの意味の言葉の語呂合わせで『Terra Net』の名称を名乗っております。

かれこれ10年以上活動しており、発足のきっかけとなったのは1995年の阪神大震災での現地支援活動です。その後、浄土宗九州ブロック青年会としてバングラデシュ支援に取り組み、2年の任期を終了後、2000年に正式に『Terra Net』として発足しました。

バングラデシュ支援を皮切りに、これまでに……

- ・2000年度～01年度 チベット、職業訓練校建設支援
- ・2002年度～05年度

タイ、山岳民族生徒寮建設・並びに里親支援

・2006年度～07年度
スリランカ、プレスクール（幼稚園）建設支援

・2006年度～08年度
スリランカ、津波孤児里親支援

・2008年度～10年度
カンボジア、孤児院改築改装支援
を行ってまいりました。

テラネットスタッフは現地に足を運び、何が不足し、今後その施設がどういった方向を目指すのかを話し合います。そして『おかげさまで募金』と『ミニ里親募金』の二本立ての募金活動を行い、主に九州の浄土宗寺院とお檀家さん方、遠くは関東・関西の方々迄、たくさんの方から募財をお預かりし、おかげさまで募金・年\$5,000。ミニ里親募金・年10万円を手渡して来ました。

お金の支援だけに留まらず、支援先からの研修生や留学生の受け入れや支援。また、各支援先にはスタディーツアーを組み、大人から子ども（中学生以上）まで、多くの方々に参加して

頂き、日本とアジアとの橋渡し役として努めて参りました。

海外支援が柱ではありませんが国内での活動も疎かにできません。シンポジウムを開き、変わりゆく現代社会や死生観に対し、お寺や僧侶がどう向き合っていくかについて学ぶ取り組みもしています。

また、これまでに高校生や保育士の研修会に出向き、我々がアジアで学び感じてきたことをワークショップの中で伝える活動も行って参りました。

一昨年には、誤解されがちなイスラムを正しく学ぼうと、福岡市内にあるモスクを訪れ、『イスラムおもしろ入門』と題し、イスラム教の勉強会を開き、なかなか海外に出れない方でも国際理解を深めていただける機会を設けております。

本年3月でカンボジア支援が一段落し、次の支援先選びに動いております。3月11日、東日本を襲いました大災害が起こり、2011年度は海外



海外への援助活動での堀師

支援を休み、東北地方の災害支援に充る事となりました。

九州から東北を目指すのは容易な事ではありませんが、4月・5月と訪れた宮城県の方々には大変暖かく迎えて頂きました。これまでの支援者の方々からたくさんの募金が集まっております。これもひとえに、今までの活動で得た信頼と期待であると受け止め、一日でも早く被災者の方々に笑顔が戻るよう『顔晴れ（ガンバレ）ニッポン!!』を旗印とし、支援活動に努めて参る所存でございます。

至心合掌

浄土宗平和賞とは？

昨今、改めて「社会参加する仏教」という言葉が提唱されています。本来、宗教的救済すなわち教化と、社会事業の実践は不可分であるといえましょう。

時代の急激な変化が大きな社会矛盾を抱え込むこととなった明治期、貧困の救済をテーマに各宗派・各教団が積極的に慈善事業に取り組み、足尾銅山鉛毒事件や東北地方の大飢饉の災害救済活動にも、宗派を挙げての活動が成果を挙げました。また我が宗に於いては、児童擁護施設の建設や児童教育のほか、

渡辺海旭師の主導のもと、各種の貧困対策事業が開始されています。これらは、後に大きく発展する浄土宗の社会福祉事業の礎となりました。

現代に目を移すと、戦後の高度成長時代を経て、日本の社会は大きく変化を遂げ、共同体や家族の崩壊は数々の社会問題を引き起こしています。このような状況において地縁・血縁を基とした伝統的寺院のあり方に加え、地域コミュニティの再構築、共同体の回復の核となる役割も期待されています。かつて

は貧困の救済が主なテーマであった各社会事業も、現代においてはグローバル化や社会問題の複雑化に伴い、多岐にわたる対応が求められています。

本協会は「共生（ともいき）」の理念を基に、一切の生きとし生けるものの安寧と平和を願う仏教者として、「社会参加する仏教」を推進しています。この度の「浄土宗平和賞」の創設は、各地で積極的に社会活動をなさっている寺院・教師・寺族等の方々を顕彰すると共に、その活動内容を広く会員にご紹介することによって、公益に資する未来の寺院のあり方のモデルとなり、格好のケーススタディと成り得ると考えています。

浄土宗平和協会 年次レポート



浄土宗平和協会（JPA）は、浄土宗劈頭宣言にある「愚者の自覚」にたち、「世界と共生する」ために平和の問題に取り組み、NGO支援、ブック・ギフト活動、浄土宗平和賞、平和アピール、スタディーツアーなどの事業を行っています。

会報ダーナでは昨年度の事業を報告するとともに、平成23年度の展望などを報告いたします。

第3回浄土宗平和賞に堀師

浄土宗平和賞は、社会参加する仏教をめざし、公益活動を行う浄土宗寺院教師を顕彰、支援する事業です。第3回の受賞者は、アジア諸国の教育支援を行なっている「Terra Net (テラネット)」に決定しました。

代表を務める福岡教区真福寺の副住職・堀眞哲師に、平成23年度の総会の席上にて、賞状、額装彫金レリーフ並びに副賞50万円が贈られました。

ブック・ギフトin Tokyo を実施

平成22年度もブック・ギフトin Tokyo を実施しました。東京都内の大学、専修学校19校から中国、台湾など4カ国43人の応募があり、昨年11月28日には浄土宗大本山増上寺大で、授与式を行いました。

○図書贈呈者国別一覧

中国30人、台湾7人、韓国5人、ネパール1人

○応募者大学別一覧

青山学院大学1人、アジア・アフリカ語学院1人、亜細亜大学1人、お茶の水女子大学1人、慶應義塾大学3人、国土館大学1人、駒澤大学3人、順天堂大学9人、東京医科歯科大学2人、東京学芸大学2人、東京家政学院大学1人、東京芸術大学1人、東京大学4人、東京農業大学3人、東洋大学2人、日本大学1人、一橋大学2人、武蔵野大学4人、立正大学1人

○応募者在籍

大学学部生9人、大学院生31人、大学研究生2人、語学研修生1人

スタディーツアーで 宗教のつぼ「エルサレム」を体感

第6回スタディーツアーを2月21日から8日間行い、パレスティナ問題の真実をイスラエルの首都エルサレムで学ぶとともに、宗教のつぼといわれるエルサレム、イスタンブールで宗教を実感しました。協力は、NGO支援を行っている「パレスティナ子どものキャンペーン」と「日本国際ボランティアセンターパレスティナ担当」の2団体があたり、内容の濃い有意義なスタディーツアーとなりました。

平成22年 平和念仏募金によるNGO支援実績

団体	プロジェクト名	援助額
① 日本国際ボランティアセンター (JVC)	紛争地における子どもの栄養支援 (パレスチナ・ガザ地区)	¥700,000
② パレスチナ子どものキャンペーン	パレスチナ・ガザ子どもセンターでの活動	¥500,000
③ 反差別国際運動 (IMADR)	インド・ダリット子どもデイケアセンター・プロジェクト	¥500,000
④ シャンティ国際ボランティア会 (SVA)	ミャンマー (ビルマ) 難民キャンプにおける図書館活動	¥700,000
⑤ ジュマ・ネット	チッタゴン丘陵地帯カグラチャリ県紛争被害を受けた青少年への教育支援	¥500,000
⑥ NPO法人ユニ	ラカイン・プロジェクト	¥100,000
計		¥3,000,000

東日本大震災の緊急募金を開始

3月11日に発生した東日本大震災に対して、当初は浄土宗としての緊急募金を実施されたこともあり、浄平協独自の募金の実施を見合わせていましたが、会員方々からの呼びかけもあり、4月1日より緊急募金を開始いたしました。被災地にて活動するNGOの活動資金として提供するものとし、浄土宗実施の募金との差別化を計りました。

活動紹介DVDが完成 ぜひ活用して浄平協の活動のアピールを

浄土宗平和協会の活動を紹介するDVDを製作しました。これは様々な場面で浄平協の活動を誰でも紹介できるようにと企画したものです。真の公益団体となるべく、多くの方々に活動の意義を知っていただき、かつ会員募集のためのツールとしてぜひご活用ください。

浄土宗平和協会平成22年度事業報告

平成22年4月～平成23年3月

平成22年			
5月12日 (水)	第1回東京事務局会	14:00～	東京宗務庁
5月24日 (月)	共生子ども会議 監査会	11:00～ 14:00～	京都宗務庁
6月	ブック・ギフトin Tokyo 募集開始		
6月7日 (月)	事務引き継ぎ会	15:00～	東京宗務庁
6月8日 (火)	第1回理事会	10:00～	東京宗務庁
	総会 (平和賞贈呈式)	13:00～	大本山増上寺
7月	会報ダーナVOL.16発行、会費請求、会員募集 第5回スタディーツアー募集開始		
8月23日 (水)	第2回東京事務局会	16:00～	九品寺
9月14日 (火)	共生子ども会議 第3回東京事務局会	13:30～ 10:30～	東京宗務庁
10月6日 (水)	浄平協第1回正副理事長会議	13:30～	
11月18日 (木)	第4回東京事務局会	16:00～	光専寺
11月26日 (金)	第5回東京事務局会	15:00～	観智院
11月28日 (日)	ブック・ギフト授与式	15:00～	大本山増上寺大殿
12月	第2回浄土宗平和賞募集 (1月号宗報掲載) 会報ダーナVOL.17発行、平和念仏募金お願い		
12月7日 (火)	平成23年度予算折衝	13:30～	京都宗務庁
12月14日 (火)	第2回理事会	13:30～	東京宗務庁
平成23年			
1月26日 (水)	滋賀支部と打合せ	13:00～	京都宗務庁
2月	第2回浄土宗平和賞募集 締め切り		
2月6日 (日)	第6回東京事務局会	16:00～	九品寺
2月21日 (月)～28日 (月)	第6回スタディーツアー (イスラエル)		
3月17日 (木)	第3回理事会		東京宗務庁
	※東日本大震災のため、文書による持ち回り理事会とする。		
3月23日 (水)	平和賞選考委員会	13:30～	東京宗務庁

平成22年度 浄土宗平和協会収支決算書

(自：平成22年4月1日 至：平成23年3月31日)

■収入の部

款	項	予算額	決算額
(1)	会費	4,200,000	4,472,000
	①正会員会費	4,000,000	4,360,000
	②賛助会員会費	200,000	112,000
(2)	寄付金	3,000,000	2,073,890
	①平和念仏募金	2,500,000	2,073,890
	②緊急募金	500,000	0
(3)	助成金	2,000,000	1,800,000
	①浄土宗助成金	2,000,000	1,800,000
(4)	雑収入	1,980,000	1,871,184
	①雑収入	1,980,000	1,871,184
(5)	繰入金	2,871,108	2,871,108
	①前年度繰入金	2,871,108	2,871,108
	②基金繰入金	0	0
収入合計		14,051,108	13,088,182

■支出の部

款	項	予算額	決算額
(1)	事業費	10,372,500	9,718,205
	①NGO団体支援金	3,000,000	3,000,000
	②緊急救援資金	300,000	0
	③ブック・ギフト費	1,000,000	610,711
	④平和大会等関連費	3,412,500	3,440,940
	⑤会費	2,200,000	2,467,849
	⑥啓発・普及費	270,000	70,000
	⑦スタディーツアー関連費	100,000	68,705
	⑧各種団体連帯費	40,000	30,000
	⑨調査研究連帯費	50,000	30,000
(2)	会議費	1,383,000	1,119,730
	①総会費	200,000	88,000
	②理事会費	744,000	471,570
	③正副理事長会費	179,000	124,760
	④事務局会費	260,000	435,400
(3)	事務費	1,050,000	1,214,856
	①事務費	1,000,000	1,214,856
	②旅費	50,000	0
(4)	募金繰金	50,000	0
	①基金繰出	50,000	0
(5)	予備費	1,195,608	0
	①予備費	1,195,608	0
支出合計		14,051,108	12,052,791

平和基金	
平和基金	17,519,840

浄土宗平和協会 年次レポート



いよいよ新たな歩み始める平成23年度の浄土宗平和協会。正会員も500名に迫る勢いで、NGO支援、ブック・ギフト、浄土宗平和賞など、定番の事業も浸透し、今年度はより充実した事業展開が望めます。また、児教連、保育協会との連携事業も開始、社会の諸問題にアプローチすべく、各団体と情報交換をしながら、具体的な事業の構築を目指します。

真の浄土宗の公益教化団体を目指し、自立した事務局体制の構築に進みます。本年度もどうぞご支援、ご指導をお願いいたします。

真の公益教化団体を目指します

浄土宗平和推進協議会時代から、昨年には20周年の節目を迎え、次の20年へ向けた一歩を踏み出す今年度です。自立した会の運営を目指すべく、事務スタッフの充実を図るなど、いよいよその体制が整いました。

自立した「公益教化団体」として、認めていただくことのみならず、一般社会でも認知されるよう活動します。

会員加入を呼びかけ、会の基盤を拡充します

現会員数は490名(団体)と、当初目標としていた500名も目前となりました。

今年度は、みなさまからのご理解とご支援を元に、さらなる会員増をめざし、宗内御寺院総数の1割以上の参加を目標とします。

今年も平和念仏募金、NGO支援を行います

平成10年度から、浄土宗御寺院のご理解のもと、行っております平和念仏募金の呼びかけを今年度もまた12月に行う予定です。

平和念仏募金を原資としたNGO支援も、引き続き行う予定です。対象のNGOは、昨年度から引き続きの6団体で、それぞれのミッションに応じた海外での現地活動に対し、資金提供を行う予定です(詳しくは表参照)。

第4回ブック・ギフトin Tokyo、in Kansai、第4回浄土宗平和賞を実施します



宗教マスコミにも大きく取り上げられ、宗内でも非常に好評を持って受け入れられた浄平協の主要事業ブック・ギフト、浄土宗平和賞が本年度は4回目を迎えます。

ブック・ギフトは、東京での実施だけでなく、関西地区で今年度始めて実施、京都、大阪、滋賀の各府県に学ぶ外国人私費留学生を対象に、東京と同じく募集を進めていきます。

また、浄土宗平和賞は会員推薦によって成り立っています。推薦もよろしくお願いいたします。

東日本大震災緊急募金の経過報告

東日本大震災の被災地支援として、浄平協として4月1日より、会員に呼びかけて緊急募金を開始しました。

よく日本赤十字、マスコミ会社等を通じた募金を実施していますが、この大震災に対して、浄平協が平和念仏募金を通じて支援してきたNGOが被災地支援への支援活動に取り組むことを受け、それらのNGOの現地での活動資金を提供することとしました。

5月18日での集計では、募金総額は8,831,595円にのぼり、以下のように4団体へ支援を決定しました。

平成23年度 東日本大震災緊急募金支援先
平成23年5月18日現在

・募金期間…平成23年4月1日～5月18日※集計締め日
・募金総額…¥8,831,595

団体	具体的活動	支援額
1 日本国際ボランティアセンター(JVC)	宮城県岩沼市災害ボランティアセンターの運営支援 福島県南相馬市でのラジオの提供 宮城県気仙沼市災害ボランティアセンターの運営支援	¥2,000,000
2 パレスチナ子どものキャンペーン	東北子ども支援ボランティア活動 子どもを中心とした心理サポートをメインとする活動	¥2,000,000
3 シャンティ国際ボランティア会	気仙沼市に拠点をおき、被災者支援活動 衣食住のサポート	¥2,000,000
4 全日本仏教会	救援物資搬送・被災者の受け入れ、現地に入った支援活動(炊き出し・ボランティア支援) 塩竈火葬場でお亡くなりになった方への読経奉仕	¥2,831,595
計		¥8,831,595

平成23年 平和念仏募金による支援NGO一覧

団体	プロジェクト名	援助額
1 日本国際ボランティアセンター(JVC)	紛争地における子どもの栄養支援(パレスチナ・ガザ地区)	¥700,000
2 パレスチナ子どものキャンペーン	パレスチナ・ガザ子どもセンターでの活動	¥500,000
3 反差別国際運動(IMADR)	インド・ダリット子どもデイケアセンター・プロジェクト	¥500,000
4 シャンティ国際ボランティア会(SVA)	ミャンマー(ビルマ)難民キャンプにおける図書館活動	¥700,000
5 ジュマ・ネット	チッタゴン丘陵地帯カグラチャリ県紛争被害を受けた青少年への教育支援	¥500,000
6 NPO法人ユニ	ラカイン・プロジェクト	¥100,000
計		¥3,000,000

平成23年度 浄土宗平和協会収支予算

(自:平成23年4月1日 至:平成24年3月31日)

■収入の部

款	項	23年予算額	22年予算額
(1) 会費		4,400,000	4,200,000
	①正会員会費	4,200,000	4,000,000
	②賛助会員会費	200,000	200,000
(2) 寄付金		3,000,000	3,000,000
	①平和念仏募金	2,500,000	2,500,000
	②緊急募金	500,000	500,000
(3) 助成金		2,000,000	2,000,000
	①浄土宗助成金	2,000,000	2,000,000
(4) 雑収入		30,000	30,000
	①雑収入	30,000	30,000
(5) 繰入金		1,035,391	2,871,108
	①前年度繰入金	1,035,391	2,871,108
	②基金繰入金	0	0
収入合計		10,465,391	12,101,108

■支出の部

款	項	23年予算額	22年予算額
(1) 事業費		7,440,000	7,710,000
	① NGO 団体支援金	3,000,000	3,000,000
	② 緊急救援資金	100,000	300,000
	③ ブック・ギフト費	1,000,000	1,000,000
	④ 平和大会等関連費	850,000	850,000
	⑤ 会報費	2,200,000	2,200,000
	⑥ 啓発・普及費	200,000	270,000
	⑦ スタディツアー関連費	10,000	0
	⑧ 各種団体連帯費	40,000	40,000
	⑨ 調査研究連帯費	40,000	50,000
(2) 会議費		1,039,000	1,383,000
	① 総会費	200,000	200,000
	② 理事会費	400,000	744,000
	③ 正副理事長会費	179,000	179,000
	④ 事務局会費	260,000	260,000
(3) 事務費		1,050,000	1,050,000
	① 事務費	1,000,000	1,000,000
	② 旅費	50,000	50,000
(4) 募金繰金		50,000	50,000
	① 基金繰出	50,000	50,000
(5) 予備費		886,391	1,908,108
	① 予備費	886,391	1,908,108
支出合計		10,465,391	12,101,108

平和基金	平和基金
	17,519,840

7ページに報告の通り、浄土宗平和協会では、東日本大震災に対する被災地支援のための緊急募金を実施、5月18日までに8,831,595円の募金をいただきました。これがかねてより支援するNGO団体などの被災地活動を支える資金として、日本国際ボランティアセンター（JVC）、パレスチナ子どものキャンペーン、シャンティ国際ボランティア会（SVA）、全日本仏教会の4団体に分配いたしました。

ここでは、シャンティ国際ボランティア会（SVA）、全日本仏教会の2団体よりの支援活動の中間報告をお伝えします。

■全日本仏教会

3月11日に宮城県沖を震源として発生したM9.0の大地震と直後の大津波は、東北・関東・甲信越の広範囲に及ぶ地域で未曾有の大災害を引き起こしました。

全日本仏教会では、東日本大震災被災地支援のため、皆様からお寄せいただいた救援基金から、まずは3月16日、日本赤十字社に1000万円の寄託を行い、その後、救援基金の配賦をするにあたっての情報収集と公平性保持のため、学識経験者と事務総局員で構成する「東日本大震災支援検討会議」を事務総長のもとに設置、その最初の会議を5月9日に開催しました。

会議では下記の支援方針が確認された他、被災地域の復興に長い時間を要することが予想されることから、中・長期の計画と対応が必要であるとの認識に立ち、継続して情報収集を行いながら対応を検討していくことが合意されました。

- 1) 本会は、加盟団体を主に現地で実際に活動している団体の支援を行う。
- 2) 被災した地域への支援活動については、仏教NGOネットワーク経由で行う。また、当面の緊急活動資金として500万円を仏教NGOネットワークに寄託する。
- 3) 現在の緊急支援は6月までとし、できる限り広く行き渡るように、情報収集につとめる。また中長期の支援については、収集した情報をもとに今後検討していく。
- 4) 今後中長期の支援活動により多くの資金の必要が見込まれるため、いただいた報告書等を広報しながら、募金活動を継続していく。

以上の支援方針に従い、6月13日現在、1については、仏教会・被災地活動団体91団体、被災者受入寺院50ヶ寺に対して、それぞれ活動支援金10万円をお送りさせていただいております。2についても緊急活動資金500万円を寄託済みであり、近日中に仏教NGOネットワークにおいて支援活動を行っている会員団体への配賦が行われる予定です。

■シャンティ国際ボランティア会

シャンティ国際ボランティア会（SVA）では、これまでの国内外20を超える災害復興支援の経験を最大限に活かし現在、宮城県気仙沼市と岩手県遠野市に現地事務所を開設して支援活動を行っています。

【SVA気仙沼事務所の活動】

気仙沼市に拠点を構えてから毎日のように本吉地区、唐桑地区の避難所21か所を巡回してニーズ調査を行い物資をお届けしています。また週1回のペースで温泉地へバスを運行させ、本吉地区の避難所の方々に温泉送迎ツアーを実施しました。他にもご協力団体の方々と炊き出し・行茶を行い、気仙沼市内11の小学校へノートや鉛筆などの学用品セットと防災頭巾をお届けしました。さらに子どもたちの心のケアを目的に日本冒険遊び場づくり協会と協同で遊び場を開設しました。気仙沼でも仮設住宅への引っ越しが始まりましたが、本当の被災地の苦しみはこれからで神戸でも遅々として復興しない町、仮設住宅で多発する孤独死、復興の個人差による心の溝に人々が疲弊していったのは震災から1年経つころでした。今後は仮設住宅のコミュニティ支援活動を柱に、地元の人々と一緒に復興に向けた活動を行ってまいります。

【SVA岩手事務所活動】

岩手県遠野市に現地事務所を開設し、SVAの得意分野であり、公的な支援が後回しにされがちな図書事業を中心に活動を行っています。活動地域は山田町、大槌町、大船渡市、陸前高田市など岩手県沿岸部。具体的には避難所や仮設住宅の公共スペースに図書スペースを設置し管理。また移動図書館車を巡回させ、被災地の方々が避難生活の中にも本（絵本や雑誌も含む）を手にする事で日常を取り戻すひと時と、様々な情報を入手する手段を提供していきます。さらに移動図書館に合わせて読み聞かせ、映画会、落語、行茶などのイベントも組み入れて長期的な支援を行っています。

第6回スタディツアーを実施

宗教のるつぼ、エルサレムに行く



嘆きの壁をバックに記念撮影



現地NGOの活動説明



嘆きの壁付近でガイドからの説明を聞く一行



パレスチナ自治区内のデール・カッディース幼稚園



釋徹宗上人より「エルサレムに関する豆知識」の講演

浄土宗平和協会は、宗教のるつぼともいわれるエルサレム、東ローマ帝国の首都で、今はイスラム教の聖地でもあるイスタンブールを訪れる第6回スタディツアーを行いました。今回のスタディツアーでは、浄平協の支援団体である「日本国際ボランティアセンター」、「パレスチナ子どものキャンペーン」が活動するエルサレムで、国際的な問題と化しているパレスチナ問題を現地で体感したことの他、キリスト教、ユダヤ教、イスラム教の聖地で、それぞれの宗教が混在して活動、世界中からそれぞれの宗教の信者が集まる聖地エルサレム（イスラエルの首都）、イエス・キリストの生誕地、旧約聖書のユダの街、そしてパレスチナ自治区の町であるベツレヘムを回るとともに、帰路、黒海・地中海を結ぶボスフォラス海峡に面した歴史の町イスタンブール（トルコ）を観光しました。

ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の世界三大宗教の聖地であるエルサレムは、一方でパレスチナ民族問題で揺れ、いまま都市の間を民族を分かつ巨大な壁が存在します。イスラエルの空港は過敏なほどセキュリティも厳しく、緊張しました。パレスチナ自治区内の幼稚園を訪ねたり、現地の人たちと食事会をして状況を聞いたり、難民キャンプ（難民村）を訪問したりと、単一民族の日本人には実感できないところもありますが、宗教と民族対立という難しい問題を目の当たりにしました。

次回のスタディツアーは未定ですが、より充実した企画を提供すべく現在計画中です。

【第6回スタディツアー参加者（敬称略）】

海、嘉藤哲也、輔老一周、箕輪良道、稲村博道、栗山聖樹、能萩野順雄、釋徹宗、和田裕美、深谷雅子、澤木洋子、服部善登正晴、能登春夫、藤田良宣、秋田光彦、川副春海、中野早智子、兼岩展子、長谷川みき、渡部徳史、濱田智

以上21名

真の公益教化団体を
目指して

昨年20周年の節目の年、真の公益教化団体を目指し、会員数の増強、自立した運営などを強化する方針を掲げた。会員数は順調に増加し、500名に迫るほどとなり、名実ともに自立した団体として、事

務局がさまざまな運営実務を自立して行える体制も整った。

これらのことを踏まえ、今年度はさらなる会員の増加を目指し、運営機能、組織の充実を図る。事業面では、「NGO支援」「ブック・ギフト活動」「浄土宗平和賞」や、社会に対する平和アピールを含め、平和へ資する活動を基盤に、事業の「深化」と「進化」の礎を築くことを目指す。

◎ 被災地の立場から

東海林良雲師講演



平成23年度総会の終了後、今年度より浄平協の理事にご就任いただいた、宮城教区雲上寺の東海林良雲師より、「東日本大震災と私」と題してご講演いただきました。

東海林師のご自坊である雲上寺は、高台にあったため幸い津波被害の難からは逃れたそうで、またご自身、800年遠忌の導師の打ち合わせに上洛しておられ、地震を体感されなかったとのことでした。

自坊に帰るにも、当初の交通網の麻痺で、1週間ほどしてから何とか自坊に戻られたのですが、そこで目の当たりになされたのは、「まさに地獄の様相」で、「瓦礫の山に言葉を失った」そうです。仙台市内の津波被害にあった某寺を訪れた時には、「墓石は県道まで流され、本堂の中で遺体を発見し、その匂いのすごさは、被災地でしか実感できないこと」と、まさに被害のすさまじさをお話しされました。

講演の後半では、「明治のマザーテレサ」といわれた颯田本真尼の〈三輪清浄〉の実践についてふれ、「財施を被災者に渡すにしても、意外と布施は難しいもので、こだわりがでてきたりする。まさに清浄に無心な布施行を心がけることが大切だと思います」と。また、多くの念仏者を育てることまで考えながら布施行をなさっていた颯田本真尼の布施行のあり方を、「浄平協でもしっかりと実践していくことが大切なことだと思います」としめくられました。

ブック・ギフト in Kansaiが
いよいよスタート

今年度第4回目となったブック・ギフト事業では、過去3年間の「in Tokyo」での実績を踏まえ、いよいよ関西での募集を開始した。「in Tokyo」と共に「in Kansai」と銘打って、大阪府、京都府、滋賀県、兵庫県の留学生を対象にする。

今後は、更に開催地域を拡充、ゆくゆくは全国各地での実施を目指す。

4年に一度の役員改選
新体制が整う

今年度は4年毎の役員改選の年当たり、長年理事をお務めいただいた渡辺成就師、加用稔子さんが理事を勇退され、かわって宮城教区の東海林良雲師に就任をいただいた。

東海林師には、被災地の理事として、今後の浄平協の被災地支援に対しても、当事者の視点からの貴重な提言をしていただけたことと期待する。

その他、正副理事長と5名の理事、参与、専門委員、監事、事務局長等は留任となり、今まで通り、浄平協の活動を支えていくこととなった。

加用稔子さんが
浄土宗寺庭婦人会会長に

理事を退任された加用稔子さんは、今年度より浄土宗寺庭婦人会の会長にご就任される。昭和43年に発足された寺庭婦人会は、文字通り全国寺院の寺庭婦人の念佛の生活を軸足にした宗義や社会事象の学習に努めることを目的としており、近年では社会福祉施設ボ

ランティア活動にも力を入れている。今後、連携を模索することが期待される。

新事務局員に嘉藤師

浄平協は会の充実を目指し、ここ数年事務局体制の拡充を図ってきたが、今年度より東京教区浅草組英信寺住職の嘉藤哲也師を事務局員としてお願いした。

これで東京事務局は、6名の事務局員という構成となり、個別の事業に対するきめ細やかな運営体制を図ることとなる。

共生子ども連絡会議
ポスターが完成

浄土宗の公益団体として、互いに協力できる体制を作ろうと一昨年に結成された、浄土宗平和協会、浄土宗保育協会、浄土宗児童教化連盟の3団体で作る「共生子ども連絡会議」。昨年、その連絡会で決定した3団体共同でポスターがこの程完成した。

ポスターは、「共生」「いのちやさしく」をテーマに、A2判のカラーポスターで、ぜひ様々な場所での掲示をお願いしたい。「共生子ども連絡会議」は、今後も、広報資

料の共同制作、イベントの共同開催などを行い連携を深める。



私

も
浄平協
会員

尾張教区建中寺
村上真瑞師



今回の「私も浄平協会員」は、尾張教区名古屋組建中寺の村上真瑞師。村上師は、建中寺が経営母体の建中寺幼稚園の園長として幼児教育に情熱を傾ける傍ら、佛敎大学の講師をお務めになられるなど、宗学に造詣が深く、今回も法然上人の教えから、浄土宗平和協会の意義を語っていただきました。

私が浄土宗において平和ということを考える時、法然上人の出家の原因にその原点があると思います。法然上人（幼名勢至丸）が9才の時・（保延7）1141年、父の時國公は押領司（現代の警察長官）として現在の岡山県久米郡の治安維持に当たっていましたが、都から派遣されて来た莊園を監督する役人・明石源内武者定明によって夜襲をかけられ、そのため非業の最後を遂げられました。この時、深手を負った父時國公は、勢至丸様を枕元に呼び、次のように話されました。「敵を恨めばまた、敵の子供はお前を恨むだろう、このようにいつまでも恨みは消えることがない。どうかお前は、敵を恨む事無く、みんなが共に救われる道を探し、私の菩提を弔ってくれ。」と遺言して、亡くなられたのであります。父上のこの遺言は勢至丸様の人生を大きく変えさせました。たとえ仇であってもその命を害することなく許すことのできる心は、お釈迦様のお説きになられた不殺生の心を強く伝えているものであり、これは他に類を見ない浄土宗における大変大きな平和の精神であると思います。

また、（建永1）1206年、弟子の住蓮・安樂の事件が起きました。この両名が善導の六時礼讃に節をつけ、念仏者の合唱に用いたところ哀調

を帯びたメロディーが人々の心をとらえ、熱狂的に流行したのであります。たまたま後鳥羽上皇の熊野山臨行の留守中に、院の女御ふたりが住蓮・安樂について尼になってしまったのであります。両僧は、死罪となり、（建永2）1207年2月、責任を問われた法然上人は、四国讃岐の国に配流に決まりました。すでに75歳の高齢でありました。その時、法然上人が念佛を少しもやめられずにお弟子たちに教えを説いているのを在阿という一人の弟子が、今このような時に掟を破ればますます罪が重くなるかもしれないので念佛をやめになってほしいと言ったところ、「都に専修念仏を説き初めて久しいけれども、まだ念佛の教えを伝えていない遠くの辺鄙なところへ念佛を勧めたいと思っていたところなので、これは流刑の身とはいえ朝廷からの恩寵と受け止めて喜んで行きましょう。私はたとえ死刑になったとしてもお念仏をやめるわけにはまいりません」とはっきりと言われました。このこともまた、朝廷からの弾圧を逆に恩寵ととらえることは、法然上人以外にあったでしょうか。このような意味から浄土宗はあらゆる宗派の誇るべき平和主義の宗派であり、そこにこそ、浄土宗平和協会の意義があると思います。

浄土宗平和協会（JPA）



会員募集

国や信条を超え、「平和」という人類共通の理念のために、志を同じくする人々による連携をめざす継続的なネットワーク運動として、浄土宗平和協会は会員を募集しています。入会希望、問い合わせは下記事務局へ。



スリランカの子どもたち（写真提供：テラ・ネット）

【入会要項】

浄土宗平和協会（JPA）の活動にあなたも参加しませんか？

正会員

対象……………浄土宗教師・寺族
会費……………年間10,000円

賛助会員

対象……………檀信徒、企業や宗教法人以外の団体
会費……………檀信徒会員 年間 2,000円
法人会員 年間 10,000円（一口）

正会員は、入会時に「私たちは平和を祈念します」と記された会員プレートを贈呈します。賛助会員は、応援に感謝を込めて、会報ダナーに芳名を掲載します。正会員、賛助会員は、スタディーツアーに割引料金で参加できます。



平和念仏募金のご協力をお願い

平和念仏募金は、各NGO団体への援助、私費留学生に希望図書を贈呈するブック・ギフト活動、社会参加するお寺を顕彰する浄土宗平和賞などの活動に充てられます。

恐縮ではございますが、何とぞご協力賜りますようお願い申し上げます。

- ◆平和念仏募金は、浄土宗劈頭宣言にある愚者の自覚に立ち返り、「世界に共生」する平和・環境・福祉・人権などの諸問題に取り組むための募金です。
- ◆①世界の人々に役立つ、②共に学びあう、③社会にアピールする、④新たな人材を発掘・要請する一の方針のもと、国

- 際的に活躍するNGO（非政府組織）を支援しております。
- ◆私費留学生希望図書支援「ブック・ギフト」事業を行い、留学生へプレゼントした書籍の購入費として役立たせていただきます。

JPA 浄土宗平和協会4つ活動

- 1 平和念仏募金運動
- 2 ブック・ギフト事業
- 3 浄土宗平和賞
- 4 スタディーツアー・NGO支援

浄土宗平和協会役員・スタッフ

理事長……………荻野順雄	監事……………梶谷正道
副理事長……………小泉顕雄	塩竈義明
小林正道	専門委員……………戸松義晴
理事……………橋田邦俊	茂田真澄
石上源應	事務局次長……………服部光雅
山川正道	事務局……………中野隆英
深谷雅子	杉浦靖俊
金田進徳	齋藤隆尚
東海林良雲	鍵小野和敬
事務局長……………川副春海	大島康裕
参与……………長島善雄	嘉藤哲也

ご希望の方には詳しい案内の掲載された協会のパンフレット（入会用振込用紙つき）を郵送させていただきますので、協会までご請求ください。

浄土宗平和協会（JPA）

〒605-0062 京都市東山区林下町400-8 浄土宗人権同和室内
電話075-525-0484 Fax075-531-5105

連絡・問合せ先：浄土宗平和協会事務センター

〒121-0832 東京都足立区古千谷本町2-12-18

電話03-3855-8781 Fax03-3855-8782 メールjpa-info@jodo.or.jp
郵便振替口座【01020-5-16369 名義：浄土宗平和協会】

